

別紙 参考様式 2

令和 8 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立木谷小学校

校 長 名 加藤 燈恵

1 研究主題等について

(1) 研究主題 自律した学び手を育てる個別最適な学びの創造

～メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動を通して～

(2) 主題設定の理由

本校では、学校教育目標を『『今日も学校に来てよかった』と思える学校づくり』とし、児童が主体的に学び合い、「わかった・できた・よかった」を日々実感できる教育活動の充実を図っている。また、育成すべき資質・能力として「課題発見・解決力」「論理的思考力・表現力」「協働の力」「実践力」を掲げ、さまざまな学習活動を通してその育成に取り組んでいる。

令和 6 年度からは、算数科において単元内自由進度学習を取り入れ、児童が本校で育成したい資質・能力を確実に身に付けられるよう授業改善を進めてきた。具体的には、①児童自らが学習計画表を作成し、見通しをもって学習に取り組めるようにすること、②学習目的に応じて学習の場や方法を選択できる環境を整え、個々に適した方法で自力解決に向かえるよう多様な選択肢と自己決定の機会を保障すること、③振り返りの視点を「学習の理解度」と「学び方」に明確化し、メタ認知的視点に基づく振り返りの機会を意図的に設け、さらにその内容を共有することで次の学習へ生かせるようにすること、などである。

これらの取組の結果、課題解決への見通しをもち、主体的に学習に取り組む児童の姿や、自らの取組を適切な視点で振り返り、学び方を調整する姿が多く見られるようになった。また、児童・教職員アンケート及び学習状況からは、育成したい資質・能力の向上、基礎学力の定着、主体的・協働的な学びの実現、さらには自己調整力の改善など、授業改善に一定の成果が確認できた。一方で、児童が自らの学び方を肯定的に捉える傾向は高まっているものの、教師が期待する学び方との差が依然として見られること、また、すべての児童が効果的な振り返りを行い、次時の学習へ十分に生かされていなかったことが課題として残っている。

令和 3 年中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して一全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現―』では、子供一人一人が自立した学習者として学び続けること、また、自らの学習状況を把握し主体的に学習を調整できるようにすることの重要性が示されている。本校が一昨年度から行ってきた「児童自身による学びの場の選択と課題解決への主体的取組」及び「メタ認知的視点に基づく振り返りと自己調整の機会の設定」は、この方向性に沿ったものであり、自律した学

習者の育成に資する取組であると捉えている。

今年度は、児童が自己調整をより多面的に行えるよう、算数科に加えて国語科でも単元内自由進度学習に取り組む。児童が学習の見通しをもって計画を立て、主体的に課題に取り組む、必要に応じて協働し、振り返りを次の学習へつなげるという学びの PDCA サイクルを確立できるよう、学習環境を整備する。また、両教科の学習において「見方・考え方」を働かせながら取り組むことで、育成すべき資質・能力と教科学力の双方がより深く定着し、学びがさらに豊かで確かなものになると考える。

以上を踏まえ、本年度はこれまでの研究で児童が身に付けた力と取組を基盤としつつ、算数科・国語科の単元内自由進度学習を通して自己調整力を中心とした資質・能力及び教科学力をより確実に育成することを目指す。そのため、研究主題を引き続き「自律した学び手を育てる個別最適な学びの創造～メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動を通して～」とし、研究を推進していく。

(3) 研究仮説

児童が状況に応じてメタ認知的視点での振り返りを行い、自己調整の機会を設定した学習活動に取り組めば、確かな資質・能力を備えた自律した学び手を育成できるであろう。

(4) 研究内容

次の2点について、これまでの取組で身に付けた力を基盤に研究を進めていく。

① 「メタ認知的視点」での振り返り等の学びの PDCA サイクルを取り入れた単元構想。

児童一人一人が自律した学習者として学び続けられるよう、学習状況を自ら把握し、主体的に学習を調整できることを目指している。

まず、振り返りの視点や具体的なモデルを示し、児童が自己調整力を高められるよう支援している。課題解決においては、単に間違いを修正するだけではなく、「なぜ間違えたのか」「どうすればできるようになるのか」といった観点から考えさせることで、自己調整的な学びを促している。また、自己採点のレベルアップ表を掲示し、教師と児童が「メタ認知的視点」での振り返りに共通理解をもつことで、児童が自分の学びを改善できるようにしている。

さらに、「自分で計画を立て、実行し、振り返り、次に生かす」という一連の学習過程を重視した単元構想を行っている。導入のガイダンスでは、教科を学ぶ意義に関わる本質的な問いを投げかけ、児童が学ぶ目的や課題を自ら設定できるようにしている。児童は、自分の目標に沿って学習計画を立て (P)、学びの場を選択しながら課題に取り組む (D)、まとめと振り返りを行い (C)、その学びを次の活動に生かす (A)。

特に、振り返り (C) から次の学習 (A) につなげる連続性を意識させることで、振り返りの質が高まり、児童の学びがより深まることを目指している。

② 異学年による協働的な課題解決場面の意図的な設定

単元内自由進度学習は、「個別最適な学び」を実現するための学習方法であり、児童が単元の枠組みの中で自ら課題を決定し、計画を立て、自分の学習速度で学びを進めていくことを重視している。学習の多くが個別に進む点では、「協働的な学び」とは異なる側面をもつ。

しかし、本校には小規模校であることや複式学級の存在など、異学年が自然に関わり合いながら学ぶ環境が整っている。異学年が同じ空間で学習する場面では、既習事項の復習や学習内容の先取りが自然に生まれており、下級生が上級生と共に学ぶことで安心して学習に取り組んだり、学びを広げたりする姿が見られる。また、上級生にとっては、下級生に説明することで学習内容を再確認したり、学び方の手本となるよう自らの学習計画を見直したりする機会となっている。

これらの姿は、本校の大きな強みである。個々の学びを尊重しながらも、異学年の関わりを生かした「協働的な課題解決の場面」を意図的に設定することで、児童の可能性をさらに引き出し、育成すべき資質・能力の一層の向上につなげていく。

(5) 検証方法及び指標・検証計画・研修計画

| 理論研究 | 授業研究 | 調査研究 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>確かな資質・能力を身に付けた自立した学び手を育てるための授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した授業づくり ・異学年による協働的な課題解決場面の意図的な設定 | <p>メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会を設定した学習活動の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学びの連続性を意識した単元構想 ② 児童が見通しをもって学習に取り組める学習計画表の活用 ③ 多様な選択肢と自己決定を生み出す学習の場と教科学力を定着させるワークシート ④ メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会の設定 ⑤ 異学年による協働的に学ぶ場面の設定 | <p>取り組んだ教科における児童の実態調査と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習理解度 ・学び方 ・到達度 |
| <p>検証方法及び指標</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート | <ul style="list-style-type: none"> ・授業観察表 ・ノート、ワークシート等 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート（4月・授業後） ・ノート、ワークシート等 ・授業中の児童の様子 ・単元末テスト ・学習計画表 ・振り返りシート |

| 検証の視点 | 方法 | 検証の指標 | 検証の視点 | 時期 |
|-----------------------------------------------------------|-------------------------|---------------------------|-----------------------------|---------------------|
| ① 学習計画表の活用によって、児童が見通しをもち、メタ認知的視点での振り返りによって自己調整を行うことができるか。 | 学習計画表 振り返りシート | 教師による評価 | 児童の記述から | 各学年の授業計画による |
| | 児童アンケート | 児童による自己評価 | 肯定的評価 80%以上 | 5月に実施後、各学年の授業研究後に実施 |
| ② 協働的な課題解決場面を意図して設定することにより、授業のねらい及び単元のねらいを達成できていたか。 | 授業評価表 | 研究授業における相互評価 | 肯定的評価 3以上 (4段階評価) | |
| | ノート ワークシート 学習計画表等 | ノート、ワークシート、 学習計画表の記述内容 | 評価基準 B 以上を達成する児童の割合 80%以上 | 各学年の授業研究後に実施 |
| ③ 教科の「見方・考え方」を働かせる授業づくりにより、「知識・技能」の力が生きて働くものとして身に付いているか。 | 単元末テスト | 学力評価 | 設定点数到達率 80%を達成する児童の割合 80%以上 | 6月・7月及び11月に実施 |

| 月 | 研修内容 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | ○研究主題・目指す子ども像について ○メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会、異学年による協働的な課題解決場面を設定した学習活動の充実に関わる取組について確認 |
| 5 | ○児童の実態調査・分析及び考察 ○単元内自由進度学習、メタ認知的視点での振り返りと、自己調整の機会、異学年による協働的な課題解決場面を設定した学習活動の充実に関わる取組について理論研修 ○学習計画表・指導案の形式、木谷小自由進度学習の取組について |
| 6 | ○研究授業を見る視点と協議の進め方について ○教材研究、学習計画表・指導案・ワークシート等の作成 ○研究授業に向けた学習環境の整備（中・高学年ブロック） ○研究授業及び事後指導（中・高学年ブロック） |
| 7 | ○研究授業に向けた学習環境の整備（低学年ブロック） ○研究授業及び事後指導（低学年ブロック） |
| 8 | ○教材研究、学習計画表・指導案・ワークシート等の作成 ○全国学力テスト問題分析・NRT 学力分析結果交流 ○研究授業に向けた指導案検討及び学習環境の整備（全学年） |
| 9 | ○研究授業に向けた指導案検討及び学習環境の整備（全学年） |
| 10 | ○研究授業及び事後指導（全学年） |
| 11 | ○児童の実態調査・分析及び考察 |
| 12 | ○紀要作成 |
| 1 | ○CRT 結果分析 ○紀要修正 ○年間の取組の振り返りと検証 |
| 2 | ○今年度の成果と課題 ○来年度の研究の方向性 |

(6) 公開研究の予定について

令和8年10月30日（金）